

月1回 中旬・下旬発行予定

**道新 Oh! クッタリ♪**

道新販売所通信

**ねっとわーく屈足**

ねっとわーく屈足Oh!クッタリ♪編集室  
編集責任者 岩佐 彰  
新得町屈足幸町1丁目53番地  
(道新岩佐販売所内) TEL65-3111



# タンチョウ屈足っ子二羽、死亡か？

**7月道新の休刊日は9日(月)です。**

○ よろしくお願いたします。

## 3年連続の屈足っ子今年も2羽誕生も・・・ ヒナには厳しい自然環境

しかし喜びもつかの間、6月10日を最後にヒナが1羽しか確認されなくなりました。死亡したと思われる。原因は不明、疾病か異常気象(6月10日、6月14日は気温が異常に低く7℃から10℃)による栄養不良か衰弱、感染症、川の溢水に流されたり、カラスやワシ類、キツネなど、天敵に襲われ捕食、捕殺、など何らかの原因などが考えられる。また、兄弟ヒナの喧嘩もあるという。兄弟喧嘩はかなり激しく、幼少時の死亡原因の一つと考えられる。ただ、ヒナ2羽連れの家族は、年に数家族で、子育てに成功した全体の1割ほどと

写真1上 6月8日撮影。右の親の足下に二羽。左の親の後ろに二羽。写真2下 6月27日撮影。悲しいけれど何回も周りを確認してもヒナは一羽しか見えな

国の特別天然記念物タンチョウ、屈足のタンチョウに3年続けてヒナが生まれた。5月末だと推定される。6月4日にヒナ2羽を確認できた。2羽のヒナは大きさに差があったがしっかりと親について歩いていた。

## 去年の屈足っ娘317番は おてんば発揮で道内大冒険！

いわれる。タンチョウは生まれて2週間以内にかなりのヒナが、死ぬと言われている。そのうち最初の冬を迎えられないのは、孵化した四分の一という数字がある。だが、なんとと言っても3度目の屈足っ子今回も無事に成長してほしい。

釧路タンチョウ保護グループの百瀬邦和理事長は自然の厳しさを指摘する。「今年もバンディングを予定している。屈足っ子の足取りを確認すること、特に越冬地がどこであるかは非常に大事です。」

保護グループでは標識調査予定は6月末から7月中旬の間に行いたいとしている。

うれしいニュースもある。去年のバンディングした屈足っ娘(標識ナンバ317)の大冒険の軌跡が保護グループの百瀬邦和理事長から連絡があった。「越冬地は確認できなかったが、4月4日に足寄町で若鳥2羽と目撃、その後4羽の群れの中にいた。そして4月22日に釧路鶴居村下雪裡で4羽の群れの中で確認。5月27日に北見市西相内、5月31日に北見市相内、それぞれ目撃されています。今、もきつと元気に思っています。」

冬期間、近場の清水町人舞の十勝川沿いにいたとの情報もある。野生のタンチョウは、一時期に比べれば格段に回復したと言える。

しかしながら、その背景には人による給餌や、農業被害、生息地の減少、事故の多発などが複雑に絡みあい、未だに危ういパランスの上で成り立っている。数だけを見ていては本質を見誤ることになると考えられる。

人とタンチョウとのより良い関係を作っていくために、釧路タンチョウ保護グループや他の生息地と連携しながら、屈足のタンチョウにあった活動を早急に模索する必要がある。

### 週刊誌の定期購読のご案内

週刊誌の定期購読のご案内です。定期購読誌につきましては宅配いたします。お気軽にお問い合わせ下さい。お申込みは 65-3111まで。



加計孝太郎の疑惑のスイカ

船越英一郎

松居一代

週刊新潮

7月20日